

やまなし
インターンシップ
実践ポイント集



YAMANASHI

はじめに

山梨県では、県内企業でのインターンシップや就業体験を通じて、県内大学生等の県内就職や県出身大学生等のU・Iターン就職を促進するため、受入企業と学生とのマッチングを積極的に支援する大学生等インターンシップ推進事業に取り組んでおります。

本事業は産学官連携事業として実施しており、教育的効果や人材育成の観点から就業体験を伴うプログラム（4類型のタイプ2、タイプ3※）の推進に特に力を入れています。

内定辞退や早期離職などの課題に対して有効とされているインターンシップ等のキャリア形成支援ですが、就業体験を伴うプログラムの実施については、実施目的の明確化や内容の検討などを充分に行わなければ効果的なインターンシップにならず、期待しているような効果を得られない場合が多いです。学生にとって印象の良いプログラム内容について、頭を悩ませた担当者も多いのではないのでしょうか。

これまで本事業では、県内のインターンシップ等を推進するため、企業向けセミナーを開催してきましたが、日々実務に携わること担当者や、社内でのインターンシップ等の理解促進に、役立てていただくため、実施のポイントをまとめた本資料を作成いたしました。

プログラムの見直しや、これから新たにインターンシップを始める際にご参考にさせていただけますと幸いです。



キャリア形成支援に係る4類型と本冊子における用語の定義について

文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（3省合意）が令和4年6月に改正され、大学生等のキャリア形成支援に係る取組が4つに類型化されました。タイプ3、4のインターンシップについては、広報活動や採用選考活動に使用できるようになりました。

類型	目的	取り扱い
タイプ1 オープン・カンパニー	個社や業界に関する情報提供・PR (就業体験なし)	「インターンシップ」とは称せない
タイプ2 キャリア教育	働くことへの理解を深めるための教育 (就業体験の実施は任意)	
タイプ3 汎用型能力・専門活用型 インターンシップ	就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得	「インターンシップ」として称して実施可能
タイプ4（試行中） 高度専門型 インターンシップ	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得	

本冊子では3省合意の定義に準拠し、用語については下記のとおり取り扱っております。

- ・ **インターンシップ** = **タイプ3、4**（就業体験があり、5日以上プログラムを指す）
- ・ **就業体験** = **タイプ2**（就業体験を含めた1～3日程度のプログラムを指す）

目 次

1. インターンシップ実施のメリット P4
2. インターンシップ実施に必要な視点 . . . P6
3. インターンシップ取組み事例のご紹介 . . P7
4. インターンシップ実施のルートマップ . P19
5. 社内での受入れ体制づくり P20
6. 教育効果の高いプログラムとは P23
7. 学生のキャリア形成支援に必要なこと . . P28

1. インターンシップ実施のメリット

インターンシップは、「採用につながる」ということ以外にも、ミスマッチの防止（入社後の定着）や組織内の活性化、人材育成など、様々な効果が期待できます。ここでは、インターンシップのメリットを実際に受入を行っている企業担当者の声と合わせて紹介しています。

メリット

1 採用の質の向上

実際の職場で仕事を体験し、会社の雰囲気を感じてもらうことで、内定辞退防止の効果や採用時のマッチングが高まります。充実したインターンシップを実施することで、入社後のリアリティショックを防ぎ、早期離職の対策にもなります。



企業担当者の声

普段学生と関わる採用担当だけでなく、多くの社員が学生と関わることで会社の目指すところや社員自身が目指すところなどの話をする機会が増え、学生に自社のことをよく理解してもらうことができています。（KEIPE株式会社）

ミスマッチを防ぐ大きな要因になると考えます。（株式会社オーテックメカニカル）

実施した部門からもインターンシップに来た学生を是非採用して欲しい等の声があり、意識が高い学生に早い段階からコンタクトをとる事ができました。（中部食品株式会社）

インターンシップを経て採用に応募してくれる学生は、会社概要や仕事内容を知った上で応募してくれているため、志望度が高く、入社してからも定着しやすいと考えます。（飯田鉄工株式会社）

メリット

2 会社の知名度の向上・魅力発信

良いインターンシップを実施することで、直接的な採用に繋がらなくても、参加学生から口コミで他の学生に広がることも期待でき母集団の形成に繋げることができます。



企業担当者の声

学生からの知名度も低く、どのような会社かもあまり知られていません。それゆえに、学生の皆さんに直接知っていただける貴重な機会と捉えています。（株式会社オーテックメカニカル）

BtoB企業なので学生からの知名度は高くありませんでしたが、インターンシップを行うことで知名度が上がりました。（中部食品株式会社）

インターンシップに参加した学生の紹介で参加してくれた学生もいるため、魅力を伝えられたと感じます。（飯田鉄工株式会社）

メリット

3 自社の課題解決

会社の課題解決を学生と一緒に考えるプログラムを設定すれば、企業のリアルな面を学生に知ってもらい、さらに学生の斬新なアイデアが課題解決のカギとなることもあります。また、プログラム設定まで行わなくても、学生から率直な感想をもらうことで、会社の良い面・悪い面に気づき、会社の魅力や改善点を再認識することができます。

企業担当者の声

インターンシップでは、自社が目指している姿と現状とのギャップを学生から率直にフィードバックをいただいています。会社として成し遂げたいことへの課題がまだまだ多くあると社員側が実感する機会になっています。（KEIPE株式会社）

まだインターンシップに来た学生を採用できてないので、課題解決のプログラムや学生からのフィードバックを上手く活用して、採用条件面等も合わせて改善をしていきたいです。（中部食品株式会社）

当社には社内のコミュニケーション不足という課題がありましたが、インターンシップの学生と接したことで、中堅社員と若手社員とのコミュニケーションが増えました。（飯田鉄工株式会社）

メリット

4 社内の活性化・人材育成

学生への指導を若手社員が担うことで、自身の会社における役割や担当している業務の必要性・意義を再認識する機会となり、社員のモチベーション向上に繋げることができます。

企業担当者の声

入社して間もない社員も学生に業務を伝えながら、一緒に行くことでアウトプットをする機会が増え、社員の成長にもつながっています。（KEIPE株式会社）

<若手社員の声>

・自身の将来について幅広く検討している学生が来てくれることで、自社の魅力や強みについて言語化する機会になった。

学生を受け入れたことによって、各担当部門も若い力が必要であると意識が変わり、採用活動に本気で力を貸してもらえるようになりました。（中部食品株式会社）

<若手社員の声>

学生に行ってもらった業務や教える流れを考えることで、自身の業務を見つめ直すきっかけとなり、普段の業務改善にもつながりました。

学生に対応する若手社員にとっては、わかりやすく仕事内容を伝えるために準備することが自身の習熟度を高めることに繋がりますし、伝え方などのコミュニケーション力の向上にも繋がっていると感じています。（株式会社オーテックメカニカル）

<若手社員の声>

・自分の仕事の理解が深まるとともに、会社を客観的に見るきっかけとなり、自社の愛着にもつながっています。

採用に関わりのない部署の社員もインターンシップを通して学生と接することで、社内の採用活動に関心を持ってもらえました。（飯田鉄工株式会社）

2. インターンシップ実施に必要な視点

インターンシップの実施においては、「企業にとっての意義」だけでなく「**学生にとっての意義**」まで意識することが**重要**です。学生にとっての意義を理解することで、学生が求めるインターンシップの実施につながり、参加学生にとって印象の良いインターンシップとなることが期待できます。

企業にとっての意義は「自社に対する理解の促進、魅力発信」や「採用選考時に参照できる学生の評価材料の取得」などイメージが付きやすいと思いますが、学生にとっての意義はいかがでしょうか。学生にとって最も重要な意義は「**自身のキャリア形成につなげる**こと」となり、その実現のためには、実施企業が「**学生のキャリア形成に繋がっているかどうか**」という視点をもってインターンシップを実施することが重要となります。

国の定義によると、インターンシップとは、

学生が**その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的**に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動

文部科学省、厚生労働省、経済産業省 発出
インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的な考え方より

とされています。つまり、受入れ企業は、本来のインターンシップの目的を果たすためにも、「学生のキャリア形成支援」という視点を持つことが重要となります。

本事業では、インターンシップ実施にあたり必要な学生のキャリア形成に繋がる視点を「教育的効果」に結びつけて下記の3つのポイントで整理しています。

プログラム作成で意識したい3つの視点

①働くこと・社会について知ることができる

→自分の適性や興味を確認し、将来のキャリアを考える材料になります。

②社会人基礎力※の向上につながる

→社会で求められる基本的なスキルを学ぶことができます。

③社会で働く姿をイメージできる

→「仕事のやりがい」「厳しさ」「成長の実感」を体験することで、学習意欲や就職活動への意識が高まります。

※社会人基礎力… 職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として経済産業省が定義したもの。

社会人基礎力（3つの能力・12の能力要素）

前に踏み出す力
(アクション)

主体性

働きかけ力

実行力

考え抜く力
(シンキング)

課題発見力

計画力

創造力

チームで働く力
(チームワーク)

発信力

傾聴力

柔軟性

状況把握力

規律性

ストレスコントロール力

3. インターンシップ取組み事例のご紹介

次ページから、積極的にインターンシップを実施し、様々な面でその効果を実感している県内企業4社の取組みについて、前ページで紹介した**3つの視点**に着目して紹介します。

取組事例 1

株式会社オーテックメカニカル

》実施のポイントは、インターンシップの目的を会社全体に共有すること！

インターンシップ実施にあたり、社内での調整にやりにくさを覚えたことは一度もありませんでした。それは経営陣をはじめ、会社全体にインターンシップ実施の目的・意義が伝わっているからだと思っています。社内全体で、受入れについて前向きに考えることができているので、現場との調整や相談もしやすい環境下にあります。

取組事例 2

飯田鉄工株式会社

》新卒学生の確保や採用後の定着に繋がっております！

入社1、2年目の社員の中にも、インターンシップに参加して入社を決めた社員が複数います。実際に多くの部署の社員と関わり職場の雰囲気を感じてもらう事で、飯田鉄工で働くイメージを持って入社してもらえています。また、インターンシップに参加した学生が入社したことで、学生の受入れや自身の仕事に対してポジティブな気持ちになり、社員のモチベーション向上にも繋がっています。

取組事例 3

中部食品株式会社

》学生には、自らコミュニケーションをとる姿勢を大切にしてもらいたい！

すべての業務をできる限り体験してもらいたく、実務体験が中心の内容になっております。そのため、「交流会」などの設定はない中でも、各現場で担当社員が付き、学生と密にコミュニケーションをとることができてます。学生と社員が信頼関係を築けるように、学生に「何でも積極的に自ら質問し、意識的に社員と交流してほしい」と伝えています。

取組事例 4

KEIPE株式会社

》理念である「働く喜びを伝える人を創る」を広げていきたい！

「少しでも学生の就活や今後の人生にとってプラスになれば」という受け入れに際しての想いを、あらかじめ全社員と共有し、特定の社員だけが学生と関わるのではなく、なるべく多くの社員と関われることを意識しています。インターンシップ中の様子は随時全社員に共有することを心がけています。

取組事例 1

株式会社オーテックメカニカル

インターンシップ担当部署：総務部

主な業種：製造業

住所：南アルプス市

創業：1985年

従業員数：約60名

事業内容

- ・自動組立機や自動検査機といった、お客様の工場の中で使用する機械を開発しています。
- ・お客様の要求に合わせてオーダーメイドで一から開発し、製造し、そして販売・設置・アフターサービスまで一貫して行っています。
- ・具体的には、医療器具、電子部品、車載部品、筆記具等、業界問わず、主に手のひらサイズの製品を高速で組み立てる装置を製造しています。

インターンシップの目的・効果

BtoB企業の弊社は、学生からの知名度も低く、どのような会社かもあまり知られていません。それゆえに、**学生の皆さんに直接知っていただける貴重な機会**と捉えており、選考に繋げるといふより、**入社に至った際のギャップを最小化**することを心がけています。

インターンシップは採用活動の一環ではありますが、弊社では、**全社で取り組むという意識が定着**しています。学生が興味をもって来社してくれること自体が、社員にとっては嬉しいことであり、**会社の活気につながる**と捉えていますし、**学生に対応する社員にとって良い刺激になる**と考えています。



3つの教育的視点からプログラムのポイントを解説

働くこと・社会について知ることができる

- ・機械設計のインターンシップにも、あえて営業部門からの説明パートも設けることで、参加学生が業務内容だけでなく業界についても理解できるようにしています。

社会人基礎力の向上に繋がる

- ・会社で実施している新入社員教育の中から、社会人基礎力の「チームで働く力」に関する教育動画を視聴し、その能力が実際の仕事にどう影響するのかを採用担当者が説明しています。
- ・会社全体での仕事の流れ（受注からお届け）の中で、インターンシップでの体験がどの段階にあたるのかを伝えることを特に意識しています。

社会で働く姿をイメージできる

- ・組立および調整作業体験では、実際にお客様にお届けする機械の一部分に携わってもらうことで、働く姿をイメージできるよう調整しています。
- ・若手社員とのフリートークでは、苦労している部分を含め可能な限りありのままの仕事を伝えるようにしています。

参加学生の声

- ・製造業界で働くイメージができるようになった。
- ・会社のことだけでなく、**社会人としての考え方を**知ることができてよかった。
- ・仕事における**コミュニケーションの重要性**を学ぶことができた。
- ・多くの社員と接することで**理想の社会人像が明確**になった。
- ・大学で**学んでいることが仕事にどう活かせるのか**、知ることができた。
- ・大学で勉強する意味を確認できた。**今後の学習意欲向上につながった。**

プログラム詳細

日程	実施内容	プログラムのポイント	連携部署
1日目	午前 ■オリエンテーション (会社説明、会社見学) ■装置見学	会社全体での仕事の流れ(受注からお届け)の中で、インターンシップでの体験がどの段階にあたるのかを伝えることを意識しています。 働くこと・社会について知ることができる	製造部門
	午後 ■全社昼礼参加 ■代表取締役社長との懇談会 ■CAD体験 ■1日のまとめ	代表から直々に学生に対して歓迎の意を表し、また、午前中の会社説明だけでは補えない会社の成り立ちから設立に対する想いを伝え、学生が気軽に質問できる場を設けています。 働くこと・社会について知ることができる	設計支援部門
2日目	午前 ■教育動画視聴 ■社内勉強会参加	・新入社員教育の中から「働くこととはどういうことか」を理解してもらうための教育動画を視聴します。 ・実際に社内で実施している勉強会に参加します。 社会人基礎力の向上に繋がる	
	午後 ■全社昼礼参加 ■機械設計担当取締役との懇談会 ■CAD体験 ■1日のまとめ	機械設計担当取締役から、機械設計に対する思いや目標などを直接聞いてもらい、学生からも直接質問できる場を設けております。 働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	設計支援部門
3日目	午前 ■営業部門からの説明、懇談会 ■CAD体験	あえて営業部門からの説明パートも設けることで、業務内容だけでなく業界についても理解していただけるようにしています。 働くこと・社会について知ることができる	営業部門 設計支援部門
	午後 ■全社昼礼参加 ■CAD体験 ■1日のまとめ	働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	設計支援部門
4日目	午前 ■教育動画視聴 ■組立・調整体験	会社で実施している新入社員教育の中から、社会人基礎力の「チームで働く力」に関する教育動画を視聴し、その能力が実際の仕事にどう影響するのか採用担当者が説明しています。 社会人基礎力の向上に繋がる	製造部門
	午後 ■全社昼礼参加 ■組立・調整体験 ■1日のまとめ	実際にお客様にお届けする機械の一部に携わっていただきます。 働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	製造部門
5日目	午前 ■組立・調整体験	実際にお客様にお届けする機械の一部に携わっていただきます。 働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	製造部門
	午後 ■全社昼礼参加 ■組立・調整体験 ■若手社員との懇談会 ■5日間のまとめ	・実際にお客様にお届けする機械の一部に携わっていただきます。 ・若手社員との懇談会では、苦勞している部分を含め可能な限りありのままの仕事伝えるようにしています。 社会で働く姿をイメージできる	製造部門 機械設計部門

POINT 意外と悩む!? インターン生のお昼休憩について

オーテックメカニカルさんでは、インターン生が1人の時間も確保できるよう、お昼は各自休憩とし、自由に過ごしてもらっているそうです。

取組事例 2

飯田鉄工株式会社

主な業種：建設業

住所：笛吹市

創業：1948年

従業員数：約180名

事業内容

- ・山梨県を中心に全国の鋼製橋梁、水門及び除塵機の設計、開発、製造、据付け及びメンテナンスを行っています。
- ・水門・橋などの鋼構造物を設計から据付まで一貫体制で行い、防災・インフラ・農業・エネルギーなど様々な分野で地域の人々の生活や安全を守っています。

インターンシップの目的・効果

- ・弊社ではインターンシップを会社、業界の知名度アップの場と考えております。会社、業界を学生に知ってもらうために、基幹部署の仕事を体験し、プロジェクトの流れと仕事の全体像を感じてもらう事を意識しています。
- ・社員の意識変革の場として、インターンシップの学生と関わり、社員が自分の仕事の魅力・やりがいを再認識することも目的の一つです。



3つの教育的視点からプログラムのポイントを解説

働くこと・社会について知ることができる

- ・製造部の溶接体験や金属加工による文鎮製作、部品の塗装体験（普段できない経験ができたという良い感想を頂いた）
- ・文系プログラムでは、営業業務だけでなく弊社の支柱である溶接・加工・塗装を知ってもらうなど様々な部署での体験を提供している

社会人基礎力の向上に繋がる

- ・学生のアウトプットの機会として、レポートを書いてもらうことと、簡単な感想を発表してもらう
- ・実業務を体験することで、弊社に入社した際の働き方を事前に知ることができる

社会で働く姿をイメージできる

- ・営業部協力のもと客先である県庁や市役所、発電所への同行する
- ・学生用の名刺を作成して客先で名刺交換を行う
- ・社員とお客様が会話している様子を見もらう
- ・昼休みに、入社1年目の若手社員と一緒に昼食をとってもらい、雑談しながら新入社員の働き方などを知る

参加学生の声

- ・まだ自分自身どんな職業に就きたいかわからない中で、ガイダンスで聞いた「**大きいものを作りませんか、地図に残る仕事です**」という言葉に惹かれ、**インターンシップ参加を決めました。**
- ・新卒1年目の方々からリアルな仕事の話の聴くことができ、働くイメージを持ってました。
- ・日々フィードバックを頂くことで、自分の強みを知ることができました。

プログラム詳細

日程		実施内容	プログラムのポイント	連携部署
1日目	午前	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼紹介 事務所見学 会社概要説明 営業業務体験：名刺交換 	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼では、どんな学生が参加するのか社員へ周知するほか、学生にも社員の顔を見てもらいます。 学生用の名刺を作成し、実務体験として営業部社員と名刺交換を行います。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	総務部 電力営業部
	午後	<ul style="list-style-type: none"> 営業業務体験：発電所同行 レポート記入・フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 机上ではなく実際の現場で製品を見せながら構造の説明などを行い、スケールを体感してもらっています。 午前午後の担当部署からのフィードバック内容を総務部より口頭で伝えます。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	電力営業部 総務部
2日目	午前	<ul style="list-style-type: none"> 営業業務体験：入札サイト確認 	<ul style="list-style-type: none"> 入札サイトの確認を通して入札公告について知ってもらい、営業部のルーティン作業を学べる内容を設定。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	営業2部
	午後	<ul style="list-style-type: none"> 営業業務体験：営業活動同行 レポート記入・フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 営業に同行し、実際にお客様と営業部の社員が話しているところを見てもらい業務の具体的なイメージができるようにしています。また1日目の体験を活かして客先で名刺交換も行っています。 <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	営業2部 総務部
3日目	午前	<ul style="list-style-type: none"> 検査業務体験：製品寸法計測 	<ul style="list-style-type: none"> 計測機器の読み方や測り方を学生にもわかりやすいよう説明しています。 <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	検査1課 (水門)
	午後	<ul style="list-style-type: none"> 検査業務体験：レベル計測・シミュレーション レポート記入、フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 説明と体験の時間を分けない事で学生ができるだけ長い時間計測器に触れられるよう工夫しています。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	検査2課 (橋梁) 総務部
4日目	午前	<ul style="list-style-type: none"> 製造業務体験：溶接作業 	<ul style="list-style-type: none"> 就業体験をする前に業務内容をイメージしてもらうため説明の時間を設けています。 溶接、機械加工、塗装作業のすべてにおいて本職の作業員が装着している保護具と同じ装備を着用し作業することで、会社がどれだけ社員の安全確保に取り組んでいるかを感じてもらえるよう工夫しています。 	製造部
	午後	<ul style="list-style-type: none"> 製造業務体験：機械加工作業 製造業務体験：塗装作業 レポート記入・フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の仕上げとなる塗装を体験することで、製品を仕上げたという達成感を味わってもらいます。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	製造部 総務部
5日目	午前	<ul style="list-style-type: none"> 工事業務体験：現場見学 	<ul style="list-style-type: none"> 緊張せずに参加してもらうため、柔らかい口調で話すことを意識しています。 稼働中の現場では現場代理人から工事の説明も行っています。 <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	工事1部
	午後	<ul style="list-style-type: none"> 若手社員との座談会 レポート作成 感想発表、フィードバック（感想を各自でまとめ発表してもらい、総務部より5日間を通しての口頭フィードバック） 	<ul style="list-style-type: none"> 座談会は、文系学生であれば営業部、理系学生であれば技術部の設計職の社員を設定し、入社後の働き方などを学生に近い視点で回答できるようにしています。 5日間で何を学んだかを自分自身で実感してもらい、インターンシップ終了後には、5日間分のフィードバックシートを学生へ送付しています。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	入社5年目以内の 若手社員 総務部

POINT 意外と悩む！？インターン生のお昼休憩について

飯田鉄工さんは、学生から質問しやすいように、また、リラックスできる時間となるように、年齢の近い1年目の社員と昼食をとってもらっているそうです。

取組事例 3

中部食品株式会社

インターンシップ担当部署：管理部

主な業種：卸売・小売業

住所：甲府市

創業：1923年

従業員数：約380名

事業内容

・商品開発から販売企画、物流までのトータルで「食」を考え、サービスを提供する総合食品企業です。

「食」を通じて、健康的な食生活、食文化の創造に寄与することを経営理念として、流通、加工機能の整備はもとより、関連会社間、メーカー、小売業との情報ネットワークを活かすことのできる企業体質づくりに努めています。

インターンシップの目的・効果

インターンシップに参加した学生の情報を知ることで、採用活動に活かす事ができるのはもちろんのこと、弊社はBtoB企業なので学生の知名度が高くなく、インターンシップを行うことによって知名度向上の期待ができることも目的の一つとして取組んでおります。

また、社員が学生に業務を教える事で若い力が必要だと担当部門も感じるようになり、採用活動を全社で考えられるようになり始めました。会社を良くするための採用活動を、自分事として社員一人ひとりが考えることにつながり、意図していなかった採用に対する社内意識の向上にも繋がっています。



▶▶プログラム作成で意識していること

弊社は、学生の知名度が高くないため、この機会に企業理解の意味も込め、より学生が働くイメージを持てるよう、すべての部門の仕事体験ができるよう調整しています。学生は社員と共にする時間が長くなるため、学生には、期間中は何でも積極的に自ら質問し、コミュニケーションをとるなど、意識的に社員と交流してほしいことを伝えています。

3つの教育的視点からプログラムのポイントを解説

働くこと・社会について知ることができる

・実業務を体験することで、やってみなければ分からない大変な部分ややりがいを見出す

社会人基礎力の向上に繋がる

・多くの従業員と接触し、わからない部分を自分から質問したりアドバイスを貰ったりすることで仕事に取り組む姿勢を学ぶ

社会で働く姿をイメージできる

・実業務を体験することで、弊社に入社した際の働き方を事前に知ることができる

参加学生の声

- ・社員の方とたくさんコミュニケーションを取れたので、話していただいたことへの反応が大切ということ学びました。コミュニケーションの取り方で、印象が大きく変わることを実感したので、今後の学校の授業や普段の生活にも生かしていきたいです。
- ・やはり何事にも取り組む姿勢というのが一番大事だと思ったので、今後も自発的に物事に取り組みたいです。

プログラム詳細

日程	実施内容	プログラムのポイント	連携部署
1日目	午前 ■会社の事業説明・ 第二営業部事務体験	<ul style="list-style-type: none"> 会社の事業を説明し、第二営業部で事務業務を部門担当者と一緒に行います。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	第二営業部
	午後 ■第一営業部事務体験 ■フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 第一営業部で事務業務を部門担当者と一緒に行います。 部門担当者から学生の良かったところ、改善したほうが良いところを記述してもらい、午前中の分と合わせて夕方学生にフィードバック行います【全日共通】。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	第一営業部
2日目	午前 ■お弁当盛り付け体験・ 配達業務体験	<ul style="list-style-type: none"> 工場で製造されているお弁当の盛り付け業務を体験し、配達業務で実際のお客様先へ行くことで実際の業務体験をします。製造から配達まで経験することで業務理解を促しています。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	中食第二工場
	午後 ■野菜の下処理業務体験・ お惣菜トッピング ■フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 工場で使用されている野菜の皮むきを体験し、業務の一端を知ってもらいます。 実際のお惣菜のトッピングラインに入っただき、具材のトッピング業務を行います。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	中食第一工場
3日目	午前 ■チルドセンターピッキング 業務体験	<ul style="list-style-type: none"> メーカーから納品された商品を棚に収めたり、各店舗別に商品をピッキングする業務を体験する事で業務の一端を知ってもらいます。 <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	チルドセンター
	午後 ■大里センターピッキング 業務体験 ■フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> メーカーから納品された商品を棚に収めたり、業務を体験することで業務の一端を知ってもらいます。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	大里センター
4日目	午前 ■ルート営業体験	<ul style="list-style-type: none"> ルート営業担当者と一緒にスーパーの店舗へ行き、冷凍食品の売り場メンテナンスと発注業務を体験する事で、ルート営業業務の一端を知ってもらいます。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p>	第一営業部
	午後 ■ルート営業体験 ■フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ルート営業担当者と一緒にスーパーの店舗へ行き、冷凍食品の納品と発注業務を体験する事で、ルート営業業務の一端を知ってもらいます。 <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	第一営業部
5日目	午前・午後 ■第二営業部 営業体験 ■活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 営業担当者と得意先へ行き、どの商品が弊社から納品されている商品なのかを説明し、担当者と打ち合わせを行うことで、営業業務の一端を知ってもらいます。 部門担当者から学生の良かったところ、改善したほうが良いところを学生にフィードバック行い、5日間の振り返ります。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	第二営業部

POINT 意外と悩む!? インターン生のお昼休憩について

中部食品さんでは、インターン生に会社が実際にどういった製品を作っているか知ってもらうために、会社で製造しているお弁当を食べてもらうそうです。

取組事例 4

KEIPE株式会社

インターンシップ担当部署：採用チーム

主な業種：福祉・医療、
教育、学習支援業

住所：甲府市

創業：2017年

従業員数：約130名

事業内容

- ・創業から、障がいをお持ちの方を支援することで安心して楽しく仕事と生活ができるよう障がい者就労支援事業を中心に取り組んでいます。
- ・現在は、もっと人の持つ可能性を発掘し発揮させるために、ものづくり事業、地域商社事業、フード事業といった新たな事業の創出にチャレンジしています。

これらの事業すべて、地域の中で働きたいけれど働くことができていない人の雇用を生み、そういった人たちが自分の持っている才能や強みを発揮できる場を創る、という目的で立ち上げています。今後は障がいの有無に関係なく、誰もが活躍でき、誰もがそこに居ていいんだ、と思える地域社会の実現を目指していきます。

インターンシップの目的・効果

- ・地域の学生に対して、まずは会社を知ってもらう
- ・自分たちの掲げている**理念やビジョンを一人でも多くの人に共感してもらう**
- ・学生に「**仕事をするって楽しいんだ、自分のやったことで誰かに喜んでもらえることは価値のあることなんだ**」ということをインターンシップを通じて体感してもらう

理念にも「働く喜びを伝える人を創る」ということを掲げており、まさにそれを広げていきたいと思っています。採用のため、というよりも**一緒に地域社会をよりよくしていく仲間を増やす感覚**に近いです。



3つの教育的視点からプログラムのポイントを解説

働くこと・社会について知ることができる

- ・自分たちが行っている業務が、地域社会の中のどこに繋がっているのかを先輩社員とコミュニケーションを取る中で知ることができる体制を整えています。
- ・毎朝の朝礼（時間が合えば終礼も）に参加することで、毎日の流れや会社としての現時点で力を入れていること・課題感を共有する時間を取っています。

社会人基礎力の向上に繋がる

- ・今何にチャレンジしているのか、どんな学びがあったのか、どんな苦悩があるのかを学生自らの先輩社員へ伝え、様々な観点から学生へのフィードバックができる体制を整えています。

社会で働く姿をイメージできる

- ・実際に先輩社員の横について業務を行うことで、リアルな業務内容を経験することができます。
- ・毎日違う業務を体験することで、様々な業務にふれることができます（学生の希望によっては、一つの業務に注力することも可能にしています）。

参加学生の声

- ・お話だけでは理解できない部分を知る事ができた。
- ・会社に携わる一人一人が“働く”ことを大切に考えている事が理解できた。
- ・これまでの自分とつながりのない業種をあえて選択したことで、社会経験の1つとなった。

プログラム詳細

日程	実施内容	プログラムのポイント	連携部署
1日目	午前 <ul style="list-style-type: none"> ■オリエンテーション ・現場見学で事業を実際に見る ・各事業や仕事の背景、取組み、課題感を知る ・その仕事の意義を理解する ・会社として大事にしているもの（理念やビジョン等）を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのインターンシップ生も同じ現場を見学するのではなく、一人ひとりの興味関心によって見学する現場を変えています。 ・会社として大事にしていることを、なるべく多くの社員から、自身の言葉で伝えるようにしています。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p>	事業運営グループ 地域商社事業部 飲食事業部 ものづくり事業部 （グループ会社） 障がい児通所支援事業部 人材マッチング事業部
	午後 <ul style="list-style-type: none"> ■インターンシップ期間のスケジュール作成 他にもインターンシップに参加する学生がいたら、お互いの目標等のシェアをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2日目以降の時間の使い方を学生一人ひとりと一緒にプランニングしています。 ・インターンシップ期間をただ過ごすのではなく、期間内で得たい成果を明確にし、目標設定をするよう促しています。 ・学生の関心が高い領域で業務の体験ができるように1人ずつ日程・時間調整を行います。 ・日常の業務以外にも、学生が挑戦したいと思うことに携われるよう調整を行います。 <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p>	なし
2日目	午前 <ul style="list-style-type: none"> ■営業体験 取引先企業との社内打ち合わせorオンライン打ち合わせ ※障がいを個人の問題として捉えるのではなく、社会を変えていくことが重要であると理解し、その中で自分に出来ることは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先企業の情報や業務提携開始してからの歴史を事前に説明し、課題感や自分ができることを鮮明にイメージしてもらいます。 ・他の企業との関わりを通じて、地域企業の実際の課題やKEIPEの課題を共有することで社会側にある障がい（社会モデル）が理解できるようにしています。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p>	事業運営グループ （障がい者就労継続支援事業） 人材マッチング事業部 （グループ会社）
	午後 <ul style="list-style-type: none"> ■営業体験（取引先企業への訪問） 取引先との打ち合わせに同席することで、リアルな現場の課題感を共有する。課題を解決するために、自分がどんなアクションがとれるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先企業へ実際に訪問することで、KEIPEだけでなく会社の現場も見ることができる。 ・実際にどんな人が、どんな課題感を持って働いているのかを直接知ることができる。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	事業運営グループ （障がい者就労継続支援事業） 人材マッチング事業部 （グループ会社）
3日目	午前 <ul style="list-style-type: none"> ■就労支援体験1 （障がい者就労継続支援事業） 提携先企業様に出向き、一部切り出していたでいる業務を障がいスタッフと一緒に遂行する。 どうしたらもっと一人ひとりが活躍できるのか、どうしたらもっと企業様やお客様に喜んでもらえるかを考えながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KEIPEのビジョンである「障がいを特別なものにせず、誰もがそこに居ていい社会にする」に向け、障がいがあるスタッフと1日働く経験を提供しています。 <p>働くこと・社会について知ることができる</p> <p>社会人基礎力の向上に繋がる</p> <p>社会で働く姿をイメージできる</p>	事業運営グループ（障がい者就労継続支援事業）
	午後 <ul style="list-style-type: none"> ■午前と同じ体験を続けて実施 		

POINT

意外と悩む！？インターン生のお昼休憩について 

KEIPE株式会社さんでは、なるべく多くの社員とコミュニケーションを取る時間をつくるため、インターン生は社食を社員と一緒に食べているそうです。

<次頁へ続く>

プログラム詳細

日程	実施内容	プログラムのポイント	連携部署
4 日目	午前 ■社食提供 ・社食提供を始めた背景を踏まえ、KEIPEが社員に対してどのような思いを持っているかを知る。 ・働くことの基盤である「健康」に目を向ける。	・社食の調理・提供の一部に携わり、自社の従業員とのかかわりを深める機会を提供しています。 働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	事業運営グループ (障がい者就労継続支援事業)
	午後 ■障がい児通所支援 ・障がい児とのかかわりを通じて、会社が目指すビジョンが年齢や性別に関係ないことを実感する。 ・仕事を通じて、社会に対してどのような価値提供をしていきたいかを一緒に考える。	・あらかじめ現場スタッフとの対話の機会を設けています。 ・障がい児に対する向き合い方や関わり方について、現場スタッフと密にコミュニケーションが取れる環境を整えています。 働くこと・社会について知ることができる 社会人基礎力の向上に繋がる	なし
5 日目	午前 ■就労支援体験2 (障がいスタッフへのサービス提供) ・障がいスタッフとの面談に同席し、支援計画に基づいて現状がどうか、これから何に取り組んでいくかを一緒に考える。	・インターンシップ期間中は、面談対象の障がいスタッフに向け、毎日実際に行っている面談に同席することで、関係性を構築できるようにしています。 働くこと・社会について知ることができる 社会で働く姿をイメージできる	事業運営グループ (障がい者就労継続支援事業)
	午後 ■これまでの振り返り ・感じたこと、学んだこと、もっとチャレンジしたいと思ったこと、などを社員と一緒に振り返る。 ■KEIPEに対するフィードバック ・学生から見たKEIPEの「強み」や「改善点」などを学生の方からフィードバックしてもらう。	・全日程終了後に、インターンシップのレポートのようなものを作成してもらうことで自身で振り返ることができる状態にしています。 ※レポートの様式は問わず、提出も原則1週間以内とし、振り返りの時間を長めに取っています。 社会人基礎力の向上に繋がる 社会で働く姿をイメージできる	各事業部



KEIPEさんが実施している「学生の思考を深める」取組みの詳細を紹介します！

DAY 1

午後：インターンシップ期間のスケジューリング

- ・インターンシップ期間をただ過ごすのではなく、成果として明確に何を求めているのかを深める
- ・他にもインターンシップに参加する学生がいたら、お互いの目標等のシェアをする

DAY 2

午前：営業体験（取引先企業との社内において打ち合わせorオンライン打ち合わせ）

- ・会社（KEIPE）として他の企業にどのような価値提供ができるのかを一緒に考えてみる
- ・個人として、他の企業の課題に対してどんな価値提供ができるのかを一緒に考えてみる
 ※振り返りやフィードバックは、必ず採用チームの社員もしくは当日一緒にいた現場社員と対面で行う

午後：営業体験（取引先企業への訪問）

- ・会社（KEIPE）として大切にしている価値観や提供価値をどのように伝え、共感してもらっているのかを振り返る
- ・個人として、企業の課題に対してどんな価値提供ができる人になりたいか考えてみる

DAY 3

午前・午後：就労支援体験1（障がい者就労継続支援事業）

- ・「障がい」や「働きづらさ」について、感じたことや学んだことを言語化する
- ・自身が働くうえで大切にしたいことを深める

DAY 4

午前：社食提供

- ・働くことの基盤である「健康」とはどのような状態かを一緒に考える
- ・健康面に何らかの難しさを持つ障がいスタッフとの関わりも振り返りながら、自身が実現したい暮らしや仕事について考えを深める

午後：障がい児通所支援

- ・障がい児とKEIPEの障がいスタッフとの関わりを合わせて振り返り、「障がいとは？」の問いへの答えを明確に持つ

DAY 5

午前：就労支援体験2（サービス利用者へのサービスの提供）

- ・「働く」の先にある「暮らす」までを見据えたサービス提供をしていることを踏まえ、自身の将来について深める
- ・他者の人生や成長に寄与する仕事の責任と魅力について、現場スタッフと対話の機会を設ける

午後：これまでの振り返り & KEIPEに対するフィードバック

- ・振り返りではインターンシップ期間を通じてどんな学びや成果があったかを、先輩社員も交えながら話をしていく
- ・レポートも、KEIPEのためではなく全て自分自身がどんなことに時間を使い、どんな気付きがあったのかを振り返るために記入する
- ・「働く」ことを通じて、これから自分自身がどうなっていきたいのか、どんな強みや価値を発揮できるのかを一緒に深掘っていく

メモ

各社の取組事例から見る「学生の成長に繋げる」ための3ステップ



STEP01

目標設定と目標を達成するためのスケジュールを設定する

目標設定をしっかりと行うことで、学生のモチベーションが高まり、最終日の振り返りや学生自身の成長の確認に活用することができます。企業にとっても、目標設定があることで、期間中、学生にどのようなことを伝えるか、学んでもらうかという指針となります。

STEP02

企業の理念やビジョン・ミッションを伝える

学生に体験する仕事为社会でどのように役立っているのかということや会社の存在意義を知ってもらうことにつながります。企業のミッションと学生の目標が合致すれば、学生は、その企業へ就職することと自身の成長をリンクして考えることができます。

STEP03

最終日にインターンシップの振り返りを一緒に行う

学生に、期間中に経験できたことや学んだことを設定した目標を踏まえて振り返ってもらいます。その際、企業からもフィードバックを行うことで、学生は客観的な視点も取り入れて振り返りを行えます。目標設定をしっかりと行ったことによって、学生は自身の現在地がわかり、自身の強みや弱みを知り、次の目標設定につなげることができます。

～まず何から手を付ければ良いかわからない担当者向け～

4. インターンシップ実施のルートマップ

設計・募集・実施・統括の4つのステップからインターンシップの全体像を確認しましょう！

設計

- 企業の戦略、課題
- 採用戦略、人材育成計画
- インターンシップ実施目的の明確化（何のために実施するか）
 - ・目先の採用以外の効果にも注目してみましょう
 - ・企業視点から学生に期待する効果も考えてみましょう
- 学生ターゲットの選定（実施目的を踏まえて、どんな学生に来てほしいか）
- インターンシッププログラムの作成（学生に何を学んでもらうか）

募集

- 広報戦略
 - ・学生に届けるためにどのような媒体を利用するか
 - ・ターゲットに響くようなキーワードの検討
- 企画書の作成（社内への情報共有も重要です）
- 大学との連携（各大学の正課インターンシップ※の受入れも検討してみる）
 - ・各大学でインターンシップ受け入れ先の募集時期と申請に必要な提出書類が異なりますので確認が必要です

※正課インターンシップ=単位が修得できる大学の正課科目として実施されるインターンシップ

実施

- イントロダクション（導入）
 - ・事前段階で、学生がプログラムに本気で取り組めるような目標設定などのマインドセットが重要です
- 学生の成長サポートツール
 - ・事前の目標設定シート
 - ・振り返りの機会・日報
- 学生へフォロー体制を提示する
 - ・学生が困った時の相談体制（報告・連絡・相談）
 - ・プロジェクト成功に向けたフォローの仕組み

統括

- プログラムの改善に向けた意見交換会
- アンケートなどの実施
 - ・学生の感想、声、実態を把握する
- 報告書の作成（社内共有用）
 - ・担当者や関係者、学生の活動の様子や声から、総合的に全体を振り返り、次回に向けた改善策を検討する
 - ・改善を重ねることによって、魅力的なインターンシップへと進化させる

どんな調整が必要？

5.社内での受入れ体制づくり

ここまでの内容を見て、「果たして社内でどれだけの協力を得られるのか」不安を抱く担当者もいるかと思います。それでも、質の高いインターンシップの実施には、「なぜ会社でインターンシップの受入れを行うのか」「どんなことを学生に学んでほしいと考えているのか」等、学生と接する現場の社員の方々へ「実施目的」をしっかりと伝えていくことが必要です。そのためには、インターンシップ担当者だけではなく、時として、経営者が前に出て、インターンシップの実施目的や方針を会社全体に浸透させていくことも必要です。

その点を踏まえたうえで、以下、ご参考としてください。

☑役割分担を明確化する

インターンシップの活動を効率的、効果的に行うには、各人の役割分担を明確にし、学生が実際に現場で働く社員から業務について指導を受けることができる体制を整える必要があります。

POINT

- ・インターンシップ担当部署だけでなく、様々な部署と連携しながら役割分担を行うことで、社内全体でインターンシップを実施できる体制、土壌づくりができます。

☑必要により教育、指導を行う

役割分担が決まったら、その役割に応じて、社員に教育・指導を行うことも、学生にとって魅力的な内容にするためには必要となります。社内教育の充実によって、現場で学生に指導する社員が、自身が担当する業務についてしっかりと説明できるようになり、学生が、その企業で働くイメージを掴み、企業の魅力を知ることに繋がります。

学生にとって社会で働くことは未知のことであり、仕事に誇りとプライドを持った社会人と接することは、「何のために働くのか」を考える上で非常に大切な経験となります。

POINT

- ・インターンシップ実施のために特別な教育・指導は必要ありませんので、普段実施している社内教育に取り入れるなどの工夫も検討してみてください。

☑プロジェクトチームを作る

プロジェクトチーム（PT）は必ずしも必要なことではありませんが、インターンシップをこれから実施する企業の方にとっては、お勧めの方法です。現場で関わるすべての人の知恵を集めてプログラムをつくるのが成功のカギです。

POINT

- ・インターンシップに関わるすべての部署の代表者が参加するPTを作る。
- ・PT参加者に各部署での教育担当としての役割を担ってもらう。
⇒各部署へのインターンシップの目的などの伝達がスムーズになります。

☑できる限りマニュアル化する

具体的な活動内容・受入れ目的・学生への教育方法について、できる限りマニュアル(手引書)を作成することで、各部署にて担当者が変更する場合も引継ぎがしやすい活動を目指すことが可能となります。

☑実施計画を立てる

自社の採用活動のフローおよび学生の就職活動の流れを考慮し、インターンシップの準備(周知広報・募集のタイミング、社内教育)から実施まで計画することが必要となります。

参考 <学生の動き及び採用市場の動向>

3年次

6月～

7月～9月

12月～2月

● 学校の就職ガイダンス開始

● ・夏のインターンシップ参加
● ・学校の就職ガイダンス

● 秋・冬インターンシップ参加

就職活動に対する意識が高まる・就職先の情報収集

4年次

3月～広報活動開始

5月～

6月～選考活動開始

● ・就職情報サイトに
● 求人情報掲載開始
● 大型の
● 合同企業説明会開催

● ・会社説明会開始
● ・応募書類の受付開始、筆記試験、WEB試験
● 受験受付開始

● 選考、面接開始

就職活動本格始動・応募先の選定

これならできる！会社全体での意識づくりの工夫

実施に対する成果をできるだけ全社に共有しましょう。

例えば、社内報などを利用して、「学生の声」や「現場で関わる社員の声(気づきや感想)」を取り上げ、発信することで、社内での受け入れに対する理解促進や現場の方のモチベーション向上・気づきにも繋がります。

こんな準備も必要！ 学生との確認

● 保険の加入状況について確認

- ・ インターンシップ中の事故や怪我に備えましょう
- ・ 企業に損害が生じた場合の備えにも繋がります

※学校の正課または課外活動としてのインターンシップ実施の場合には、学生教育研究災害傷害保険（任意加入）の加入対象になります。加入状況や詳細については個別に学校にお問い合わせください。

● 企業秘密や個人情報の漏洩を防止するための誓約書を交わす

※正課のインターンシップの受入れを行う場合は、各大学ごとに提出する書類が決められておりますので、各学校の指定様式に添ってご対応ください。

誓約書の記載例

全て記入し、署名・捺印が終わりましたら、一部を持参して下さい。(原本は弊社が保管、コピー一部を学生が保管)

処遇概要確認書

【御社名】 _____ (甲)と _____ (乙)は、インターンシップ実施に関する取り決めを、下記のとおりに行うものとする。

業務内容	
インターンシップ期間	平成 ____年 ____月 ____日 ~ 平成 ____年 ____月 ____日まで
頻度	学期中 : 週 ____日 ____日以上(____時間以上) 長期休暇中 : 週 ____日 ____日以上(____時間以上)
活動支援金	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり : 時間毎・日毎・月毎 _____ 円 支払日 : 毎 ____月 ____日
交通費	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり : 区間 _____ 駅 ~ _____ 駅 (※上限 : <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり _____ 円まで)
確認事項 <small>(受け入れ企業・インターン生の両方で確認し、捺印・捺印・捺印)</small>	<input type="checkbox"/> 日報または週報を実施しますか？ (する場合は <input type="checkbox"/> に捺印にチェック) <input type="checkbox"/> 受入企業担当者(スーパーバイザー)とインターン生によるキャリアミーティング(振り返りや目標設定ミーティング)は実施しますか？ (する場合は <input type="checkbox"/> に捺印にチェック) <input type="checkbox"/> 処遇概要確認書(本紙)を記入しましたか？ <input type="checkbox"/> 誓約書を記入しましたか？ <input type="checkbox"/> インターンシップ保険加入(適用期間: 上記インターン期間と同じ)はしますか？ <input type="checkbox"/> 学生証(免許証等 身分証明書写真付きのもの)の確認はしましたか？ <input type="checkbox"/> 使用パソコンの確認、および使用注意事項確認(情報漏洩防止対策等)はしましたか？ <input type="checkbox"/> その他(_____)
インターンシップ中に使用するE-mail アドレス	
特記事項 <small>(試用期間の活動支援金等)</small>	

上記の通り、インターンシップの処遇概要を確認する。

(甲) インターンシップ受入機関名 _____ 担当者部署名/スーパーバイザー氏名(署名) _____

(乙) インターン生 氏名・連絡先等

氏名(署名) _____	大学名(所属) _____
現住所 _____	連絡先(携帯) _____
緊急時連絡先 _____	(実家・携帯・親族(続柄: _____) : その他 _____)

30 (添付書類)

全て記入し、署名・捺印が終わりましたら、一部を持参して下さい。(原本は弊社が保管、コピー一部を学生が保管)

誓約書

_____ 御中

私は、貴社にインターン生として受け入れて頂くにあたり、次の事項を確実に遵守することを誓約いたします。

- 貴社の就業規則及び服務に関する諸規程等を尊重し、貴社インターンシップ担当者(以下、「スーパーバイザー」という)の指導にそって誠実にインターンシップに参加することとします。
- 貴社への提出書面に虚偽の記載を一切しないこと。
- インターンシップ期間中、住所の異動その他、身上に重大な変動があった場合は直ちに貴社へ届け出ること。
- 貴社施設への利用に際しては、
 - 貴社の定める立ち入り禁止区域に立ち入らないこと。
 - 貴社施設をインターンシップ以外の目的に使用しないこと。
 - 貴社施設に第三者を立ち入らせないこと。
 - その他、貴社諸規程及び責任者の指示に服すること。
- インターンシップ期間中に知り得たいかなる事項については、インターンシップが終了した後といえども、貴社の書面による許可なく、第三者に開示・漏洩し、若しくは不正使用しないこと。特に貴社においてインターンシップ期間中取り扱う書類、ノート、磁気ディスク、その他これに類する資料及びその写しなど企業秘密資料の保管・管理については
 - 貴社の諸規程・命令・指示に従うこと。
 - 貴社の書面による許可なく第三者に譲渡・貸与し、若しくは自ら不正使用しないこと。
 - インターンシップ終了後は直ちに貴社に返還すること。
- インターンシップ期間中取り扱うパソコン(企業秘密資料が保管されているもの、貴社支給・私物問わず)には、責任者の指示がない限り、ファイル共有ソフト等、情報漏洩の危険性があるソフトのインストールおよびネットワーク接続を一切しないこと。
- インターンシップ期間中に発生した著作権及び工業所有権等の成果物の所有権の一切は、貴社に原始的に帰属すること。
- 処遇概要確認書を承認したことを確認し、貴社に一切迷惑を掛けないこと。
- 本誓約書に定めなき事項については、責任者の指示を仰ぎ、その指示に従うこと。
- 万一、上記事項のいずれか一つにでも違反した場合、或いは貴社において私が研修生として不適当であると判断された場合には、インターン期間(平成 ____年 ____月 ____日から平成 ____年 ____月 ____日まで)中といえども即時インターンシップを中止されても異議を唱えないこと。また、その場合は、法的措置(損害賠償、差止請求)等に服すること。
- 上記に関する紛争についての管轄は【貴社所在地所管の地方裁判所の名前】とする。
- 本誓約書および処遇概要確認書については、第5条の秘密保持規程を除き、上記インターンシップ期間中において有効とする。
- 本誓約に定めのない事項及び本誓約書の運用、解釈に疑義が生じた場合は、法令または慣習に従い協議の上、誠意をもって解決する。

_____ 以上

_____ インターン生 氏名 _____ 印

20歳未満のインターン生は、次の欄も記入

保護者住所 _____	保護者氏名(自署) _____	契約者との関係 _____
		印

31 (添付書類)

6.教育効果の高いプログラムとは

インターンシップ実施にあたり必要な「学生のキャリア形成支援」に繋がる3つの視点ごとに、自社で実施可能なことをイメージしていただくための参考ページです。ぜひプログラム検討の際にご活用ください。

※第2回インターンシップ活用促進セミナーに参加した、県内企業や学生から出た意見をまとめたものになります。

①働くこと・社会について知ることができる

●企業理解・仕事理解を深める工夫

- ・社内でのキャリアパスについての説明を入れる
- ・実際の部署にいる社員からの業務説明をする
- ・インターンシップを通してどのようなことを学ぶことができるのか、得られるのかをメッセージとして伝える

●仕事のリアルを伝え、入社後のギャップを埋める

- ・良いことだけでなく、悪いこと（マイナス部分）を伝える
- ・暑い中でも外を歩いて視察場へ行くことや、一日ずっと社員の方について回ることで大変さややりがいを感じられる（学生意見）

●業界理解・自社の魅力を知ってもらう工夫

- ・業界の中の位置づけ（どのような役割を果たしているか）についての説明する
- ・同業界の他社との違いを知ってもらう
- ・今の日本の状況から、この業界に魅力があることや楽しさを伝えてもらえる（考えられる）プログラム（学生意見）
- ・企業が社会にどう貢献しているか、役割を持っているかを伝える
- ・生活に身近な実績を例としてあげるなど、学生の興味を惹く企業説明
- ・社会状況や経済状況、日々のニュースで流れていることと自社の状況をリンクさせる

●学生主体の学び・参加型の体験を取り入れる

- ・工程表を動かすまで、学生に「自分ならどうする」ということを実際に考えてもらう
- ・社内ツアーを行って働きやすい環境づくりについて知ってもらう
- ・インターンシップの対象として選んでもらうためのアイデアをもらう（何をPRすれば興味を持ってもらえるか）

②社会人基礎力の向上につながる



能力1 前に踏み出す力

能力要素

主体性：「自ら考え、決定し、行動する」ことが求められる環境を作る

働きかけ力：「自分から動かないと進まない」環境を作る

実行力：期限と成果を明確にし、「やり遂げる体験」を提供する

<体験例>

- ・ 学生が主体的に発信し、指示待ちではなく行動する力を育めるように期間中、主体的に動くよう投げかける
- ・ 学生の主体性を高める社員インタビュー
- ・ 「提案する」をカードゲームを使って体験する（仕事イメージと実際のギャップを知る）
- ・ 新商品のアイデア提案や製品のPR方法について学生自身が考える（目的や方向性だけ事前に与える）
- ・ 業務の効率化や環境改善に繋がるアイデアの提案（企業のリアルな課題を解決するために、自分で情報収集し、仮説を立てる経験を積む）
- ・ プレゼンテーションや資料作成スキルの向上を目指す機会を設ける
- ・ 個人でスライド・ワードを使用してお客様向けの提案書を作る（見やすさ・説得力を意識）
- ・ SNS運用、広報業務の企画に学生が挑み、「どうすれば効果的に対象者へ情報を届けることができるか」を学生自身で考える
- ・ 営業のロールプレイング体験で、相手のニーズを引き出す質問方法や傾聴を学ぶ

Point

※実習期間中に「**失敗**→**改善**→**再挑戦**」の機会を得られると、学生はさらに成長を感じることができます。また、実際入社する際に関わる様々な社員の方からフィードバックをもらうことで、会社の雰囲気を知ることに繋がり、より働くイメージを醸成することができます！

②社会人基礎力の向上につながる



能力2 ▶ 考え抜く力

能力要素

課題発見力：「物事の問題・改善点を見つける力」を育む機会を作る

計画力：「目標達成に向け自ら計画を立て、遂行する」機会を作る

想像力：物事を多角的に考え、自由な発想を求める環境を作る

<体験例>

- ・業務の課題発見と解決に向けた学生主体のグループディスカッションを行う
- ・学生の目標設定を受入れ現場と共有し、目標達成を目指す
- ・学生のやりたいことを尊重し、その可能性を潰さないプログラムを提供
- ・さまざまな職種の実験や選択肢の提供をし、学生の視野を広げるプログラムにする
- ・振り返りを毎日行い、改善ポイントを見つける機会を提供
- ・学生の成果やスキル向上に基づいたフィードバックを実施
- ・最終日に、成果報告会や振り返りの発表会を実施し、それまでに学生自身が何をどのように準備していくか計画的に考えさせる
- ・店頭商品の購買履歴や店舗での陳列状況を分析し、自ら課題を仮設し、一定のターゲットに届けるためにはどのような仕掛けが必要か考える
- ・実際に起こったトラブルやクレームを例に、適切な対応を考えるワークを実施する（状況を正しく捉え、何が問題であるかを考えさせる）

Point

正解がある課題を提示するよりも、正解のない（簡単に答えを導き出せないような）、**自由な発想が可能な課題を設定**することで、学生の意欲を引き出し、想像力を膨らませることができます。また、受入れ企業側は学生の特性を理解することにも繋がります。

②社会人基礎力の向上につながる



能力3 チームで働く力

能力要素

発信力：「自分の考えや意見を分かりやすく伝える」機会を作る

傾聴力：「相手の話を理解し、適切に反応する」ことを学ぶ機会を作る

柔軟性：「決まった手順をこなす」だけでなく、「どのように解決するか」を考えさせる機会を作る

状況把握力：「なぜこの業務を行うのか」「全体にどのような影響があるのか」を理解させるための説明や場づくりをする

規律性：責任感を持てるように、ルールや約束を明確に伝える

ストレスコントロール力：要所要所で「何を優先すべきか」「どのように改善すれば次は上手くいくか」を考えさせる環境を作る

<体験例>

- ・ 定期的な振り返りや話し合いの機会を設ける
- ・ グループワーク、ペアでの話し合い、ゲームを通じてコミュニケーション能力の向上につながる
- ・ 実際の社内会議に参加をし、ポイントをまとめる
- ・ チーム活動を通じた協働体験でチームで働くことを体感する
- ・ 学生から社員への質問を促進し、自ら発信する機会を増やす
- ・ ビジネスマナーや社会人の心得を学び、社会人としての基礎力の向上につながる
- ・ 新入社員研修で行っているマナー、社内ルール、接客用語などの研修を実施する
- ・ ホテル業界における接客マナーについての講義を実施
- ・ 電話対応、接客のシミュレーションやロールプレイングを実施し、どのような対応が必要か・問題は何かを考えさせる
- ・ あらゆる世代とのコミュニケーションの取り方を学ぶ

③社会で働く姿をイメージできる

●仕事理解・リアルな職場体験

- ・実際の職場環境や働くイメージを持たせるための取組み
- ・他部署との関わりを知ることで働くイメージを感じ取ってもらう
- ・いろんな部門や部署の体験で、好きを見つけてもらう
- ・営業同行などのプログラムで、お客様や取引先など実際の業務で関わる人を訪問する
- ・若手社員と同じ就業時間や制服で働くことでリアルさを実感してもらう
- ・どのくらい体力を使うか、メンタル面でどんな変化があるかを実感していただく（立ち仕事、人に見られる仕事であること etc）

●若手社員との交流

- ・より年齢が近く身近に感じることができる先輩と関わることで、働くイメージを明確にする
- ・新入社員や若手社員と遠慮なく話ができる機会（昼食・おやつ）
- ・学生と年が近かったり、入社1年目の方と関わるができるプログラムを企画する
- ・若手社員で活躍している人の話をする（聞く）

●フィードバック・自己成長の支援

- ・学生一人ひとりの適性を理解し、成長につなげる
- ・フィードバックは必ず行い、「あなたのこういったところは会社でこんな風に活かせる」と具体的に伝える
- ・自己分析を行って、一人一人に「こういう働き方が向いている」とのアドバイス
- ・成果発表を幹部社員に対して行い、フィードバックをもらう

●会社理解・未来の展望の共有

- ・企業のビジョンを伝え、学生が自身のキャリアをイメージできるようにする
- ・今後の会社の展望を説明し、学生に求める姿を説明する

●Point

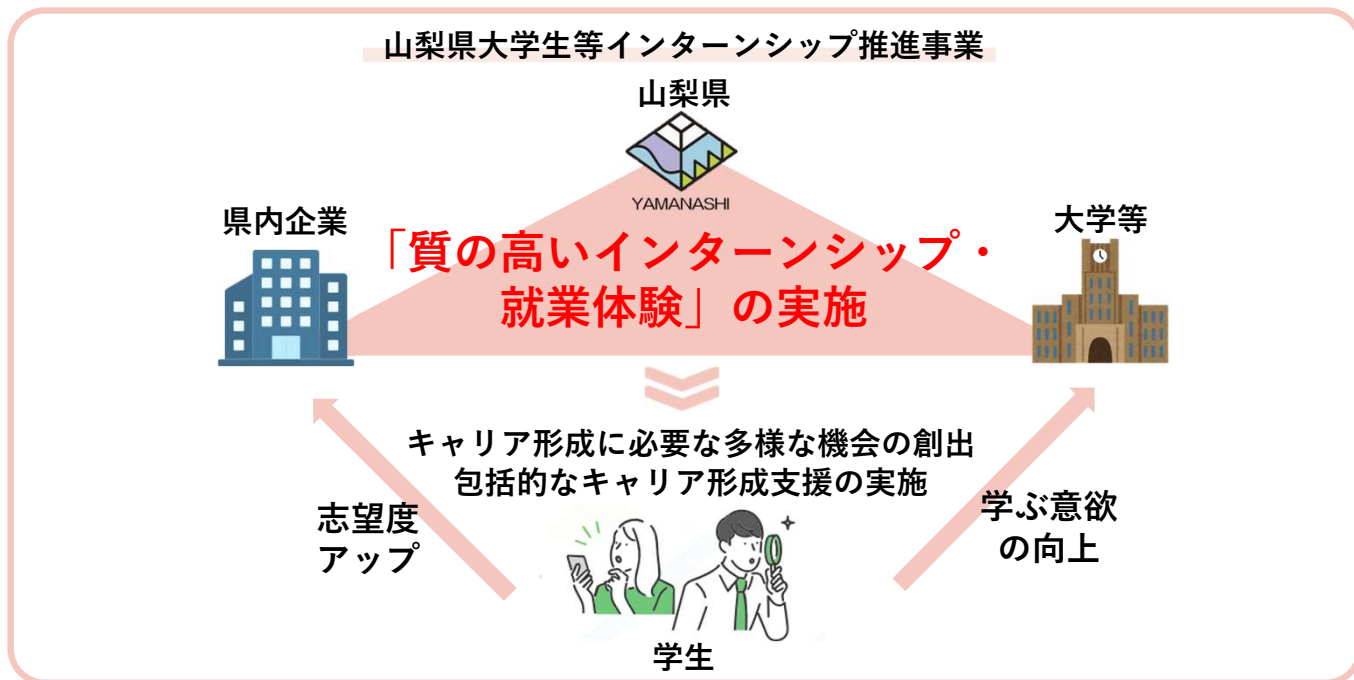
インターンシップを実施する際、**実習時間を実際の就業時間に合わせる**ことで、学生は朝・夕の道路状況を把握したり、フルタイムで働くことの大変さを知ったりと、働くことの厳しさやリアルを体感することができます。また、学生がお客様気分から抜け出し、**組織の一員としての意識を持つ**ことにも繋がります。

7.学生のキャリア形成支援に必要なこと

インターンシップ実施において、学生が主体的に自らのキャリア形成について考えることが重要であり、インターンシップ実施前後の学習が肝になります。ここでは、学生を送り出す大学と学生を受け入れる企業が連携して、学生の成長をサポートする必要があります。

本事業では、産学官の連携がすることによって、山梨県内で「質の高いインターンシップ・就業体験」を実施することで、充実したキャリア形成支援を目指しております。

○本事業におけるキャリア形成支援のイメージ

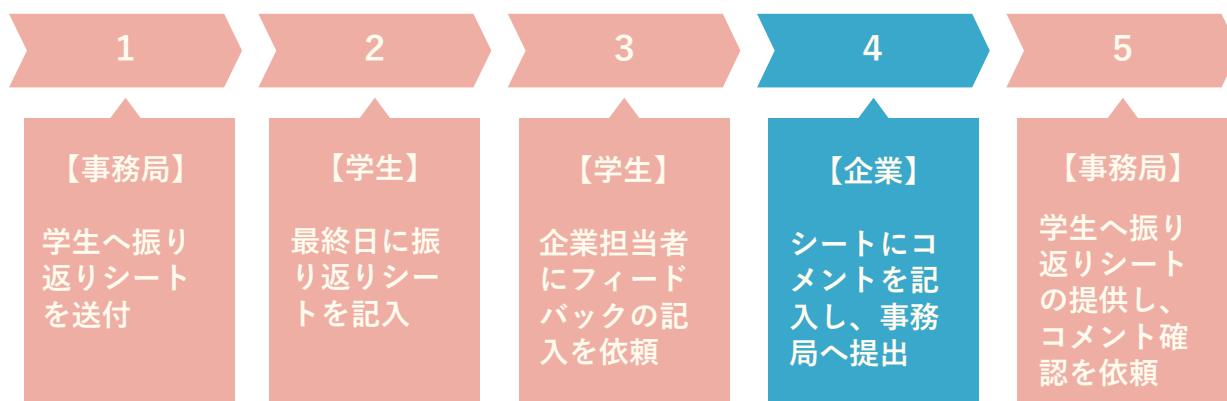


■本事業における「就業体験」実施時の振り返り支援

- ・事務局から参加学生に対し「目標設定シート」「振り返りシート」を渡します。振り返りシート内には、企業担当者からフィードバックをいただく欄を設けております。
- ・就業体験最終日、参加学生よりフィードバックの記入を求められた場合、企業担当者は、「振り返りシート」へコメントを記入します。
- ・記入後は、企業から事務局に提出をお願いしております。
- ・フィードバック内容は、事務局から学生へ共有します。

* 「振り返りシート」の活用は基本的に3日以上のプログラムを想定しております

振り返り支援の流れ



目標設定シート（インターンシップ・就業体験共通）

山梨県「大学生等インターンシップ推進事業」ご利用者向け

インターンシップ・就業体験 目標設定シート

実習先に「目標設定シート」を持参して、振り返りの際に「どこまで達成できたか」確認しよう！

記入日： 年 月 日

○学生情報

氏名	
大学・学部・学科・学年	

あなたの将来の夢・志（どう生きたいか/どんな人間でありたいか）などをお書きください。

--

上記を実現するため（または近づくため）に、実習先で得たいこと、深めたいこと、経験したいことをお書きください。

--

インターンシップ・就業体験を通して、**今後伸ばしていきたい自身の強み**もしくは**克服したいこと**をお書きください。

※行動目標の設定は、「社会人基礎力」の項目を意識すると、振り返りや適正の確認がしやすくなるのでおすすめです。

「社会人基礎力」は下記の3つの能力と12の能力要素で構成されていますので参考にしてみてください！

行動目標

参考：社会人基礎力

能力	能力要素	能力要素ごとの行動目標の例
前に踏み出す力	① 主体性	①アドバイスを進んで受ける
	② 働きかけ力	②わからないことは進んで確認する
	③ 実行力	③目的を設定し、確実に行動する
考え抜く力	① 課題発見力	①失敗を未然に防ぐよう気を付ける
	② 計画力	②必要な行動やスケジュールを考える
	③ 想像力	③思いついたことは常にメモを取っている
チームで働く力	① 発信力	①自分の意見をわかりやすく伝える
	② 傾聴力	②相手が何を求めているか考え話を聞く
	③ 柔軟性	③相手の状況を読み取りながら行動する
	④ 状況把握力	④必要な情報とそうでない情報を整理できる
	⑤ 規律性	⑤社会でのマナーやルールを守る
	⑥ ストレスコントロール力	⑥嫌なことがあっても気持ちを切り替えることができる

（書類の流れ： 学生[作成]→インターンシップ先企業担当者[確認]→学生）

振り返りシート（就業体験用）

山梨県「大学生等インターンシップ推進事業」ご利用者向け

就業体験 振り返りシート

記入日： 年 月 日

※本シートを就業体験期間中に作成し、最終日に実習先担当者へ提出してフィードバックをお願いしてみよう！

※実習先へ提出した本シートは、実習先でフィードバックを記入した後、事務局から共有いたします。

※「目標設定シート」の内容と照らしながら振り返りを行ってみてください。

○学生・インターンシップ情報

学生氏名	
大学・学部・学科・学年	
企業名	
記入対象期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (間)
実習プログラム名	

○期間中に実施した業務内容と自己評価

実施した業務内容
自己評価・今後さらに力を入れて取組みたい点

○あなた自身の「行動目標」に向けて取り組んだ内容と自己評価

自身で設定した「行動目標」
自己評価・実習中での気づきを踏まえ、今後さらに力を入れて取組みたい点

【受入れ企業記入】フィードバック：学生への今後の成長に向けたメッセージ

※企業ご担当者様へ 学生から提出があった場合はフィードバック記入のご協力をお願いいたします。

--

受入れ企業からフィードバックを頂く箇所
※学生の目標設定に対してのフィードバックや応援メッセージ

（書類の流れ：学生[作成]→インターンシップ先企業担当者[記入]→やまなしインターンシップ推進事務局）

※個人情報の収集と利用の目的は、裏面をご確認ください。

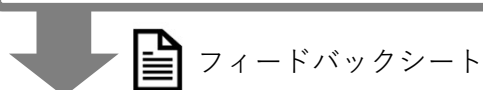
■本事業における「インターンシップ」実施時の振り返り支援

- ・事務局から参加学生に対し「目標設定シート」「振り返りシート」を渡します。
- ・本事業専用の「フィードバックシート」を事前に事務局から企業担当者へ送付します。
- ・目標設定シートはインターンシップ初日に学生から企業担当者へ共有します。
- ・学生は、実習期間中に「振り返りシート」を記入し、最終日に企業担当者へ提出します。
- ・インターンシップ終了後、企業担当者は、学生の「振り返りシート」をもとに、学生へのフィードバック内容をご記入いただきます。
- ・企業担当者は、学生から預かった「振り返りシート」と「フィードバックシート」を事務局へ提出していただきます。

<フィードバックシートを活用した学生へのキャリア形成支援の流れ>

【事務局】

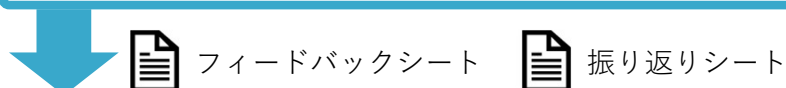
企業へ「フィードバックシート」を送付



【企業】

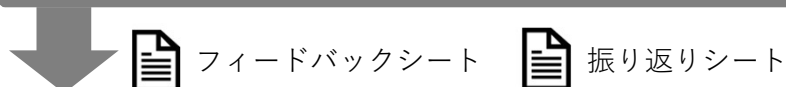
インターンシップ実施後、「振り返りシート」をもとに「フィードバックシート」にフィードバックを記入

事務局へ「フィードバックシート」および「振り返りシート」を提出



【事務局】

学生・大学へ「フィードバックシート」および「振り返りシート」を共有



【学生・大学】

学生のキャリア形成支援に繋げる

振り返りシート（インターンシップ用）

山梨県「大学生等インターンシップ推進事業」ご利用者向け

インターンシップ 振り返りシート

記入日： 年 月 日

※本シートはインターンシップ期間中に作成し、最終日に、実習先の担当者へ提出してください。

※自己評価は「目標設定シート」の内容と照らしながら記入してみてください。

※本シートの内容をもとに、実習先にフィードバックシートを作成していただきます！フィードバックシートについては、後日、事務局から共有いたします。

○学生・インターンシップ情報

学生氏名	
大学・学部・学科・学年	
企業名	
記入対象期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (間)
実習プログラム名	

○期間中に実施した業務内容と自己評価

実施した業務内容
自己評価・今後さらに力を入れて取り組みたい点

○あなた自身の「行動目標」に向けて取り組んだ内容と自己評価

自身で設定した「行動目標」
自己評価・今後さらに力を入れて取り組みたい点

○本インターンシッププログラムでの気づき(自分の長所や現在の不足点、これまでの大学生活の学びの活かした点、今後大学の授業等に加えて意識して努力すべき点等、今回の経験を通して感じた内容を具体的に記入)

--

(書類の流れ： 学生[作成]→インターンシップ先企業担当者[確認]→やまなしインターンシップ推進事務局・協力校)

インターンシップ フィードバックシート表（企業担当者記入）

山梨県「大学生等インターンシップ推進事業」ご利用者向け

インターンシップ フィードバックシート

記入日: 年 月 日

<記入者>

氏名 : _____ 印

企業名・所属・役職 : _____

○学生・インターンシップ情報

学生氏名	
大学・学部・学科・学年	
インターンシップ期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (間)
受入企業・組織の名称	
担当した業務内容	<ul style="list-style-type: none">・・・・

○基本評価

基本評価項目	評価コメント
取り組みの姿勢・態度	
自己成長への意欲	
担当した業務の達成度合	

○行動評価 ※学生自身が設定した「行動目標（振り返りシート内）」を確認し、それに対する評価をお願いします

学生の行動目標	評価コメント

○人物評価

強み／長所と考えられる点

インターンシップフィードバックシート裏（企業担当者記入）

山梨県「大学生等インターンシップ推進事業」ご利用者向け

○学生への今後の成長に向けたメッセージ

○事務局への申し送り事項

（書類の流れ： インターンシップ先企業担当者[作成]→やまなしインターンシップ推進事務局→学生・協力校）

（学生に向けたキャリア形成支援の流れ）赤字：企業様の動き

■実習前

- ・学生は、「目標設定シート」を記入

■実習中

- ・学生は、実習最終日までに「インターンシップ振り返りシート」を記入します
- ・学生は、実習最終日に、企業担当者へ「インターンシップ振り返りシート」を提出します

■実習後

- ・企業担当者は、実習最終日に学生から預かった「インターンシップ振り返りシート」の内容をもとに「フィードバックシート」へ記入します
- ・ご記入後、「インターンシップ振り返りシート」および「フィードバックシート」を事務局へご送付願います

やまなしインターンシップ実践ポイント集

発行日：令和7年3月18日 第1版

編集・発行：山梨県多様性社会・人材活躍推進局労政人材育成課

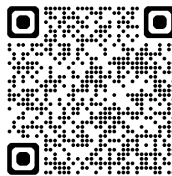
【お問合せ先】

運営：やまなしインターンシップ推進事務局（ヒューコムエンジニアリング株式会社内）

☎ 080-7292-1171 ✉ internship_yamanashi@hucom-eng.co.jp

電子データを下記ホームページに掲載中

大学生等インターンシップ推進事業 事業Webサイト
<https://internship-yamanashi.com/>





YAMANASHI

山梨県 令和6年度 大学生等インターンシップ推進事業